

高校生の地域での登山活動における主な課題と対応策

	現 状	課 題	実践研究を活用した対応策
学校・生徒のニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 山岳部が設置されている県内高校の実践研究への参加についての意見 <ul style="list-style-type: none"> 【大田原高校】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 遺族やOBなど、部活動登山をサポートする人材が豊富であり、現在の部活動の形態を続けることを強く希望している。 【宇都宮高校】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 経験豊富な顧問がおり、実践研究に参加するよりも、現状の体制で安全登山を模索していきたい。 【栃木女子高校】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 部活動の精選を主な理由に、R8年度の活動を最後に廃部の予定であり、実践研究の話聞いても方針に変わりはない。 【真岡高校】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 登山計画審査会の対象となる登山は行っておらず、ハイキングなどの活動が主なニーズである。 【宇都宮白楊高校】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 年間の登山数は2～3回程度である。顧問の登山経験が少なく部活動指導員を配置している。実践研究を実施することとしたが、令和7年度の活動として、登山を行うために必要なトレーニングや読図等の学習を充実させることに重点をおきたい。 ○ 各校の顧問からは共通して、登山計画書を作成することに困難を感じているとの意見があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校毎に異なる登山に関するニーズへの対応 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒・保護者・学校の意見・要望を踏まえた様々な取組の展開(読図等の学習・トレーニング、登山計画書の作成、能力・技術段階別の登山、複数校合同での登山等)
指導者	<ul style="list-style-type: none"> ○ 山岳連盟の協力の下、実践研究における指導者を確保した。実践研究への参加者が増えた際に、より多くの指導者が必要になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 指導者の発掘と育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県内及び県外の指導者の発掘 ○ 県主催研修会の充実 ○ 実践研究の取組を山岳部が設置されている県内高校や関係団体へ周知し、地域活動への理解を広げる。
運営団体	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高校生山岳会設立や、それを目指すための取組の運営をすることについて、県内の山岳関係団体と協議してきたが、次のような点が課題として挙がっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 未成年が保護者の同伴なしに登山に参加することについて ・ 高校生の登山を引率する責任について ・ 教育的側面として、どこまで指導するかについて ・ 単発の講習会だけでなく、定期的な指導機会の確保について 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域に移行していくための受け皿となる団体の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実践研究をとおして安全かつ円滑に運営するためのノウハウを積み上げ、外部の団体へ移行するための体制を構築していく。